

第6回平塚市社会教育委員会議要旨

日 時	令和5年7月25日（火）15時00分～17時00分
会 場	平塚市役所619会議室
出席委員	井手委員、山崎委員、大和田委員、鈴木委員、丸島委員、小巻委員、 畠中委員、江水委員、飯田委員、伊東委員
欠席委員	河野委員
事務局	平井社会教育部長、田中社会教育課長、鳥居中央公民館長 木村課長代理、木村主査、吉水主事
傍聴者	なし

会議要旨

1. 議長あいさつ

暑い日が続いているが、今日もテーマについて協議していきたい。議事に入る前に社会教育部の夏以降のイベントについてトピック等あればご紹介いただきたい。

○事務局

夏休みに入り、スポーツ関係では今週から来週にかけて第60回少年野球大会が開催される。この60回大会を記念して秋にプロ野球のOBを招いた野球のイベントを、また10月後半から11月前半にかけて、市総体を実施する予定である。

夏休みに小学校のプール開放が4年ぶりに再開している。

文化関係では、美術館、図書館、博物館にて茶色をテーマに展覧会等を予定している。

美術館にてダンボールを使った立体作品の展覧会を開催している。実際に作品を作る親子向けのワークショップも予定している。また、8月に図書館でも茶色をテーマとした展示をする予定である。

2. 議事

(1) 神奈川県社会教育委員連絡協議会の事業について

①総会（6月12日）について

事務局から担当ローテーション、令和7年度関東甲信越静社会教育研究大会（神奈川大会）について説明した。

②研修会（9月4日）について

事務局から9月4日（月）に開催予定の県社教連研修会の案内をした。

(2) テーマ協議について

○議長

事務局から各委員に事前にアンケートを送付してもらっている。この内容について、各委員から今期テーマ「子どもの地域参加・参画」の課題やビジョン、方向性等の発表をお願いしたい。

○副議長

私の地域では、自治会や民生委員等、今までの活動を再開させようと動き始めている。その中で聞こえてくるのは、「役員の高齢化」、「担い手不足」、「再開させることの引継ぎが大変」だということがある。今までのことをやるだけで精一杯という状況がある。私の地区は若い世代が増えているが、親も子どもも仕事や習い事で忙しいようだ。地域への関心が薄れているのかもしれない。

しかし、子どもたちを育てていくには学校と家庭だけでは充分ではなく、地域で育てていくことはとても大切だと思う。

若い世代にもっと地域を身近に感じてもらう工夫が必要なかもしれない。

地域で活動している役員等の核になる人達が集まって、感じていることを話し合う場が大切ではと感じている。今後、学校運営協議会が市内でも広がっていくと思うが、学校は学校の役割があるため、学校に負担を掛けたくないとも思う。

それから、子どもたちの声を聴き意見を吸い上げることが大切だと思う。情報発信の点では、回覧板や公民館だよりで発信しているが、若い世代をターゲットにもう少し工夫する必要があるのではと感じる。

○委員

大人が作ったものに子どもが参加するという、子どもをお客さん扱いにしていることがあるのではないか。大人が作ったものに参加するよう子どもに押し付けてしまっていないか考えるべき。「なぜ子どもたちが参加しなければいけないか」、「参加することでどんな経験、どんなメリットがあるか」、「この体験が将来どう生きてくるのか」等、大人が子どもに分かりやすく具体的に説明してあげる必要があると思う。

そのためには「主権者教育」に力を入れていくことが求められると思う。民主主義社会では、自ら課題を見つけて、課題をクリアするためにはどうしたら良いか自分たちで考えていくことが大事。年齢や経験の異なるさまざまな人が集う社会教育施設において、学芸員や社会教育主事の方が子どもたちに民主主義の手続きを経て、自分が関わることで世の中を変えることができるという体験をさせてあげることが良いのではないか。

○委員

課題として、子どもや親は習い事や仕事で忙しい状況がある。まずは、地域の行事等の情報発信方法の工夫をして、参加してもらうことが第一歩ではと思う。

港地区では、お祭りの日の早朝に海岸清掃を実施していて、小中高の学校を通じて参加を呼びかけ総勢 400 人の参加があった。コロナでイベントがなく制限されていたことで、このようなイベントを待ち望んでいることを感じた。

○委員

私は 40 年以上お囃子を続けており、自分の地区だけでなく、各地のお祭りに行くことがある。今は人出が戻ってきており、皆が賑やかなイベントを待ち望んでいると感じる。行事の役員等は活動を休止しているところから急に忙しくなり大変に感じることもあるかもしれない。

子ども達が主体的に自らやりたいことを考えて、進めていく形が良いと考えている。そこに大人のフォロー（声掛けや見守り等）が必要になる。大人が子どもに強いるのではなく、どうアプローチしてフォローしていけるかが課題であると感じる。また、コロナ前の行事をそのまま再開させるのではなく、みんなで話し合っ、今のスタイルに合わしていくことが必要であると思う。

○委員

私が子どもの頃は地域行事を優先していた。今は、家族や習い事等を優先するようになり、地域行事への意識が薄れていると感じる。これをどう高めていけるかが課題。

島根県では地域の大人が学校へ行き、子ども達とフリートークする試みがあるようで、このフリートークに参加した子どもがまちで地域の人を見かけると話し掛けてもらえるなど、顔の見える関係になっているという。

放課後の子ども達は習い事で忙しく、なかなか放課後に集まってもらうことは難しいので、学校のカリキュラムに地域と子どもが触れ合う時間を設けてもらえるといいのでは。

この触れ合う時間の中で子ども達の声を聞き取り、地域の行事に反映させることに繋がるかもしれない。

○委員

大原小学校の 4 年生が社会科の授業の中で総合公園へ行き、アンケートを取った。その結果、お年寄りの利用が多いことが判り、このことから、お年寄り＝公民館と結び付き、公民館長に小学生から質問状が届いた。質問は「公民館の課題は何か」、「この地域の課題は何か」というものだった。後日、小学 4 年生と話し合いをする機会を作った。

子ども達の視点は大人と違っており、「お年寄りと一緒に体操がしたい」、「挨拶してくれた人に折り紙をあげたい」という提案があった。そこから、夏休みに皆でラジオ体操をするイベントに繋がった。大人だけでは、考えもつかない発想があるので、このような交流の機会を学校の授業でやってもらえるといいと思う。学校の授業以外の時間に地域の行事等の反省会に子ども達に出てもらうのは、とてもハードルが高い。

学校からのアプローチが難しければ、地域から学校へアプローチして、子どもとの交流を図ることができたらと思う。

○委員

江陽中学校では、水泳部の活動が盛んで、先日全国大会の出場が決まった。今までは中学校単位での出場が基本だったが、部活動の地域移行の関係で地域のクラブチームも中体連の大会に出場できることになった。中学校の部活動の子ども達の中には、クラブチームと掛け持ちをしている子もいて、クラブチームと選手の取り合いになる状況がある。

今までと違い、部活動や習い事も多様化しており、言葉が分からなくても翻訳アプリを使えば、インターネットを通じて世界と繋がることのできる環境にある。このような中でも自分の地域のことを選んでくれる子が増えてくれるといいなと感じた。そのためには、子どもの親世代が地域の行事を楽しむことが大切で、親の楽しんでいる姿を見て、地域に目を向けてもらえると良いのではと思う。

また、子ども達で流行している「^{ティック トック}Tik Tok」や「^{ユーチューブ}YouTube」で子ども達向けに「^ば映える」配信をしたりすることで興味を惹くことができるのではないかな。

○委員

「なぜ地域参加が必要なのか」を子どもだけでなく大人も共有していくことが必要ではないか。保護者世代の価値観が多様化しており、地域の役に負担感を感じたり、地域に出なくなってきていると感じる。自分たちが役員となり、作り上げることも既に出来上がっているものを求めているのでは。ただ保護者は子どもの活動への参加、体験は大事だと感じている。子どもだけが地域参加するのではなく、親を含めた家族で参加することも大切ではと思う。

まず「子どもが何を望んでいるか」を中心に考えていくことが重要。平塚市は特に公民館が充実しているため、公民館をはじめとする社会教育施設で子ども達が考えたことが実現できる体験ができると良いと考える。このためには、指導者やコーディネーターの確保も必要になる。

また、「子ども達が望む地域参加のあり方」や「どのような居場所を求めているか」を探っていくことが必要ではないかと思う。

直接対面での交流だけでなく、ネットでも参加できるよう様々な参加の形があっても良いのではと思う。

○副議長

子どもと気軽なコミュニケーションができるような関係づくりが何より重要ではないかと考える。それから、子ども達は何がやりたいのか、どうしたいのか、何が楽しいのか、子どもの意見に耳を傾けて、地域行事等に活かしていけるといいのでは。

子ども達は授業以外で地域の課題等を考えることはなかなか難しいと思う。学校の授業で扱ってもらえれば、しっかり考えてくれるのではと思う。

子ども達の意見を聞くことも必要だが、子の親世代の意見を聞くことも大切だと考える。

ざっくばらんに意見交換ができる場（懇親会のような場）で自由に地域の大人と子どもや保護者が交流できるといいのでは。

○議長

子どもの意見を聴き、地域イベントに反映させることは必要であると考えているが、子どもの意見を聴いたり、イベントを実行する地域の役員の後継者不足や高齢化により、地域力が低下していると感じている。特に子ども会育成会や交通安全協会など、市内の各地域で担い手不足のため解散しているところもあるようだ。

また、もう一つの課題として、情報が必要な人に届いていないのではないかと感じる。子どもや保護者世代に合わせた情報発信手段を使い、より工夫していく必要があるだろう。

最後の課題として、子育ては家庭・学校・地域が協力して行っていく必要があると考えるが、地域で子育てをするという意識が低くなっているのかもしれない。

これらの対策としては、「大人の負担感を低くする」ことが必要と考える。例えば、昨年度横内地区で実施した「ヨコフェス 2022」では、当日のボランティアとして、短時間でもいいのでできる時間にお手伝いできる人を募ることで、ボランティアのハードルを低くし、参加しやすい工夫をしていた。理想としては、「できる人ができる時にできることをする」ことだが、集まったボランティアを振り分ける人が必要になるなど、この仕組み作りが大変だと思う。

情報発信手段の課題としては、行政には地域に対して新しい情報発信手段の使い方等の支援をしてもらうことが必要だろう。また、関心のある方は自分で情報を取りにいくことができたり、既に情報収集をしていたりするが、そうでない方へ情報を伝えることが一番難しいと感じる。

これからコミュニティ・スクールが始まっていくが、地域の声を学校運営にどこまで反映することができるのかが課題だろう。学校の教員の働き方改革を進める中で、学校への負担も考えていかないといけない。

○委員

多様化していく中で、地域の各種団体の構成メンバーにも変化が見られる。以前は父の会があったが、現在はサポーターという名に変化し、登録は女性が増えている。

P T Aから地域活動をスタートする方が多いようだが、以前は複数の団体の役員を掛け持ちする人が多かったが、現在はP T Aの役員のみという方が増えている状況がある。

○委員

P T Aは先生の負担が大きいだろうから、P T Aから保護者会に移行しても良いのではと思う。学校と保護者会がうまく繋がっていければ、先生もやりやすいのでは。

(P T Aに限らず) 今までのやり方に固執せずに、今のスタイルに変化していくことが求められていると感じる。

今は団体に所属するとか役員を担うことを煩わしいと感じる人が多いのだろうと思う。ママ友など若い世代にも小さなコミュニティはあるが、既存の団体に入って役割を担うのは面倒だと感じるのかもしれない。

○議長

地域の役員も任期は決まっているものの、次の担い手が決まらなると引き続きお願いされたり、別の団体の役員に声がかかったりするなど、一度受けるととても大変なことがある。

○副議長

親が団体の役員を楽しくできていない様子を見たと、子どもは大変そうでやりたいと思わないだろう。役員は大変だと思うが、大人が楽しくできる雰囲気があると思う。例えば、お手伝いをした方におみやげがあるだけでも多少違うかもしれない。

○委員

現在、おやじの会に所属しているが、若い保護者世代がいない状況である。次の担い手はいないが、今のメンバーが楽しく活動できていることが継続していくことに繋がっていると思う。

○議長

地域の方が学校に入っていくことについて、学校はどのようなスタンスか。

○委員

地域の方が学校の授業に入っていただく時間はカリキュラム上、限りがあるが、地域に関わる学習時間はある。教員への負担が大きくなる程度であれば、学校としては歓迎している。

○副議長

地区の公民館で七夕まつりの時期に七夕飾りを作っている。短冊は公民館利用者にも書いているが、短冊以外の飾り付け等は公民館運営委員が手分けをして担っており、負担としても大きい状況がある。そこで公民館運営委員が小学校へ行き、子ども達に休み時間等に任意で短冊を書いてももらったり、事前に任意でやりたい人を募集してみることが

できたらいいと思う。

地域で青少年指導員が中心となりお化け屋敷を作り、中学生ボランティアにも協力してもらい、13年続いているイベントがある。このように継続しているからこそ各団体等にも定着して実施できていることもある。学校にとっては負担になっていることがあるようだが…。

○委員

学校の教員はPTA活動にしても、学校として地域に関わるにしろ、勤務時間外の活動は任意でなければいけないと思うので、働き方改革が叫ばれる中、教員の負担について、地域も配慮しないとイケないだろう。

○委員

教員は子どもの成長に喜びを感じて目指している方が多いが、月の時間外労働時間が80時間を超えると過労死ラインになってしまうことを管理職としては考えなければならない。部活動を受け持っている教員であると部活動だけでもこのラインにかかってきてしまう状況があるので、地域の活動までできるかというとなかなか難しい状況がある。教員も地域との関わりが大切であることは理解しているので、限られた時間の中で関わっていただけるといいと思う。

○委員

なかなか地域に出ることが難しい教員の方もいると思うので、地域も学校が出てくるところを待つのではなく、例えば地域内の人材バンクのようなリストを作って、学校に提供することを考えていいかもしれない。

○委員

学校教育ボランティアに登録をすると、登録した内容で学校の授業をお願いされることがある。私は地域のカルタの歴史で登録しており、小学校の授業で説明することがある。

○委員

学校の先生に地域の人材の情報等は届いているか。

○委員

情報は共有しているが、今はスマホで簡単に検索できることもあり、例えば専門学校の情報を調べる時にスマホの検索にヒットする情報から当たることがある。市内に該当する学校があるのに、検索でヒットした市外の学校を見つけてくることもある。インターネットの情報の方が検索するうえで便利なため、人材バンクに目がいけないこともある。

○副議長

小中学生の保護者ばかりをターゲットに考えがちだが、もう少し下の幼児や赤ちゃんの保護者世代をターゲットにしてもいいかもしれない。

○委員

以前は公民館にいけば、必要とする人材の情報が手に入ったが、現在は個人情報保護の関係もあり厳しくなっている。インターネットであれば、簡単に大量の情報を得ることができるので、頼ってしまうことも理解できる。

○委員

各学校に教育ボランティアのような登録制度はないか。

○委員

岡崎小学校では、「地域ボランティア」として登録いただいている。コロナ禍で活動ができなかったことでうまく引き継ぐことができなかったことがある。しかし、最近は地域と学校との関わりが近いこともあり、地域の方をゲストティーチャーとしてお招きして授業をしていただくことが増えつつある状況である。

○委員

全小中学校で地域のボランティア登録があると思っていたが、そうではないのか。

○委員

小学校では多いかもしれないが、中学校では少ないかもしれない。私の地区では、地域の情報については公民館で色々な情報を教えていただいている。

○委員

各地域の団体が身内だけで盛り上がっていて、平塚市に転入してきた方が入っていける雰囲気か、疎外感を感じないかが、率直に気になった。

顔の見える関係も重要だが、緩やかな繋がりでもいいのではないかと感じた。

また、学校教育についての話題が多かったが、社会教育施設の特に博物館や図書館が話題に出ていないことが気になった。

○議長

平塚市では、ほぼ1小学校区に1館の公民館があり、地域の方にとって身近な存在であるが、博物館や図書館は公民館ほど地域の中に館があるわけでもないこともあり、皆さんの

意識では公民館の方が近い存在なのだろう。

ありがとうございました。皆さんから課題や対策等の意見が出てきた。次回は報告書を作成する上での骨格について、話しをしていけたらと思う。

(3) 次回の会議予定の確認

第7回会議日程 令和5年10月24日(火) 15時から(410会議室)

3. その他

○委員

A5サイズのカラーの配付資料で平塚での子育てについて、みんなの声を募集している。身近な方にお知らせいただくとありがたい。

以 上